

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2016年1月15日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部文学科英米文学専攻
留学先国	オーストラリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マッコーリー大学 現地言語: Macquarie University
留学期間	2016年2月～2016年12月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年12月14日
明治大学卒業予定年	2018年4月
<b>留 学 先 大 学 に つ い て</b>	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:2 月下旬～7 月上旬 2 学期:8 月上旬～12 月上旬 3 学期:12 月上旬～2 月上旬 (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	40,209 名 (2015 年)
創立年	1964 年

留学費用項目	現地通貨 (AUD)	円	備考
授業料	0	0 円	協定留学のため
宿舍費	21,339.38	1,821,543 円	
食費	0	0 円	宿舍費に含まれる
図書費	0	0 円	
学用品費	351.45	30,000 円	
教養娯楽費	234.45	20,000 円	
被服費	117.23	10,000 円	
医療費	0	0 円	
保険費	1,094.42	93,420 円	形態:海外旅行保険
渡航旅費	1,172.3	100,000 円	
雑費	351.45	30,000 円	
その他	0	0 円	
その他	0	0 円	
その他	0	0 円	
<b>合計</b>	<b>24,660.69</b>	<b>2,104,963 円</b>	

## 渡航関連

**渡航経路:** 往路: 中部国際空港→羽田国際空港→シドニー国際空港 復路: 往路に同じ経路

渡航費用

チケットの種類	エコノミー
往路	70,000 円
復路	70,000 円
合計	140,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

株式会社ジェイエスティ

## 滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

大学の宿舎

2) 部屋の形態

個室 OR  相部屋(同居人数 )

3) 住居を探した方法:

大学のホームページ

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

勉強する環境は非常に重要なので滞在先は慎重に選んだ方がいいと思います。自分はキャンパス内にあるダンモア・ラング・カレッジという寮に住んでいたのですがおそらく一番いい環境で生活できていたと思います。この寮はおよそ250人程度の学生が生活しておりすぐに友達ができると思います。また私のような男性の場合この寮が毎日三食ごはんを提供してくれたのはありがたかったです。この寮に入寮してからは多くの友達ができるイベントが開催されており楽しいキャンパスライフを送るには一番だと思います。他には各寮の階には RA という生徒の生活を見守る上級生たちがおり、生活に不安を抱えていたり深夜のトラブルなどすべて解決してくれ非常に安心です。この寮はプレイルーム、パソコン室、図書館まで完備しており勉強と私生活両方をサポートしてくれます。事実私は大学の図書館で勉強しているよりも寮で勉強している方が長かったです。また大学のジムへの無料会員もついているので日々健康でいられると思います。また海外で生活している以上一番気になるのは食事かもしれませんがこの寮にはオーストラリア系のシェフとアジア系のシェフが両方おりバランスが偏らず生活できます。その分料金は他の居住地と比べ高いですが最高の環境で留学生在活ができると思います。やはり居住地を選ぶ際はなるべく節約せずお金をかけた方がいいと思います。私の友達で住んでいた場所がうるさくて寝れずこの寮に引っ越してきたこともありました。また女性などで料理をする人の場合は寮でも食事がつかないところなどもあるのでそれぞれの居住地に確認して選んだ方がいいと思います。

## 現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった  
 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

学内外で問題があったときはまず寮の受付の人に相談しました。学生たちのすべてのことを把握してくれているのですぐに対応してくれます。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

私が留学中イスラム過激派 ISIL がウェブ雑誌上において、オーストラリアの象徴的な場所でオーストラリア人を殺害するといったテロ予告がありました。ちょうどそれに重なってシドニーマラソンがあり自分も出場するため非常に心配でした。以前ボストンマラソンでも爆破テロがあっただけにより慎重に行動するようしました。それらの危険情報は在シドニー領事館からたびたびメールにて報告があったのでそこで情報を収集し従うようにしました。運よく犯罪には巻き込まれなかったですがオーストラリアだからといって気を抜かずに行動したほうがいいと思います。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のインターネットは充分につながりました、また繋がりが遅かったときはイーサネットと併用することでインターネットが速くなりました。しかしながらたびたび途切れることもありました。寮はキャンパス内にあるため繋がりが遅い際は大学の図書館などで勉強しました。オーストラリアの街中では日本ほど Wifi の設備が充実しておらず探すのに苦労しました。しかしながらオペラハウスやビーチなど観光施設には必ずと言っていいほど Wifi があるのでそこら辺を探したほうがいいと思います。私は日本の携帯を持って行きSIMフリー化していなかったので現地で携帯を買う羽目になりましたが日本でSIMフリー化してしまえば現地でSIMカードを買えばいいだけなのでそちらをお勧めします。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座

は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
現地で資金調達は日本でキャッシュパスポートを発行していったため親に入金してもらい適当な ATM を探しそこで引き落としました。しかしながら手数料が毎回3ドルほどとられるので現地で口座を開設できればそちらのほうが良いと思います。私は現地で証明書を作る際住所がわかる何かが必要だったので現地で口座を開設しました。
6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。
これといって現地で調達できないものはありません。よほどの都市であればアジア系のスーパーもあるので食料は調達できます。日本で使い慣れているシャンプーなどがあれば売っていない可能性があるので持って行ったほうがよいと思います。
7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)
<b>卒業後の進路について</b>
1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
就職キャリアセンター
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1~3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
商社、コンサルティング会社
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1~3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
帰国が自分は12月で皆より就職活動の時期が遅かったため、留学中に就職活動を始めることをお勧めします。
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)	
1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
ICOM 100 - Introduction to International Communication	
科目設置学部・研究科	人文科学研究科
履修期間	一学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が2回
担当教授	Dr. Li Ji
授業内容	この授業は国際的なコミュニケーションの研究に対する理論的な枠組みを紹介してくれます。つまり簡単に言えばコミュニケーションの行われる過程やその意味の形成に対するアプローチや分析に必要な考え方を紹介してくれます。この授業の最終的な狙

	いとしては国境や人種を超え現在世界中で行われている実体間でのコミュニケーションの過程を容易にし、分析し、そして改善するにはどうしたらよいかを考えることができるようにすることです。チュートリアルではその中でも特に広告やメディアに焦点を当てクラス全体で議論します。
試験・課題など	課題は意識と引用に関するオンラインテストとある広告をもとにそこに描かれている記号論を分析するエッセイがあります。また試験に関しては三つに分かれておりマーク式のテスト、今授業で扱ったテーマどれか一つを選んで書くエッセイ、そしてもう一つは研究の計画書を作成します。どのようにそして何を利用してその研究を行うかの企画書を作成していきます。
感想を自由記入	異文化交流や母語が違うもの同士でのコミュニケーションなど留学生にとっては非常に興味をそそられる内容でした。また通訳や翻訳を学びたい人にとってはまず学ぶべき内容であると感じました。授業のレベルに関しては様々な国々から来てる人と学ぶのでやりやすかったです。しかしながらエッセイやチュートリアルでの討論に関しては柔軟な思考力と議論するだけの英語力が必要なため予習復習は欠かせないです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
PHL 137 - Critical Thinking			
科目設置学部・研究科	人文科学研究科		
履修期間	1 学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回		
担当教授	Albert Atkin		
授業内容	この授業では批判的思考法と推理の基礎を学び、それにより議論の形成、分析、そして批判的な評価、つまり簡単に言えば議論における一般的な誤りを検出する方法を習得できるようになります。議論の範囲はビジネス、法律、科学、政治、哲学までに及び実用的な推理の評価の方法を用いて分析していきます。批判的思考力はすべての分野の軸となる非常に重要な考え方で大学を超えた人生においてもためになる技術になります。		
試験・課題など	課題は 3 回のオンラインテストがあります。他には中休み中に出される課題としてエッセイがあります。試験についてはエッセイになりこれは出された文献をもとに文章中の誤りを検出して書くクリティカルエッセイになります。		
感想を自由記入	全ての分野の軸となるだけあってここで学んだことは後の他のエッセイを書く際の大きな手助けになったような気がします。また分野としては哲学ですがそれほど難しい内容ではなく入門としての哲学なので学びやすいです。チュートリアルでは学生が軸となって授業を作り上げ先生は特に発言しないので自由に授業を作り上げることができました。しかしながらこの分野に関して全く興味がなければこの授業の面白みを感じることはできないかもしれません。履修人数はとても多いです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
ENGL 120 - Approach to English Literature			
科目設置学部・研究科	人文科学研究科		
履修期間	1 学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回		
担当教授	Professor Antonina Harbus		
授業内容	この授業は、文学作品を批判的に読解し、原文の分析を大学レベルで行います。また入門としての必要な用語と概念を紹介してくれます。あらゆる種類の物語になれるために毎週短い文学テキストと批判的読解の課題が与えられます。扱うテーマとしてはアイデンティティを主として物語のコンセプトを調査していきます。		
試験・課題など	課題は毎週の読み物に加えあるポエム作品の読解エッセイ(文献の使用なし)と採点され返却された最初の課題をもとに同じ作品の読解エッセイ(文献の使用あり)があります。また試験直前に長編文学作品を読み、出される三つの質問に対し一つを選び 2000 字程度で書くエッセイがあります。試験は今まで授業で扱われた文学作品の中		

	からの出題でその場で三つ程の質問に対しエッセイを書かなければなりません。すべての範囲から出題されるためあらかじめの作品に対する完璧な読解が要求されます。
感想を自由記入	私は明治大学で英米文学専攻ということもありこの授業を履修しましたが日本で行われている英米文学の授業と違い原文を取り扱うのでいろいろな言い回しや表現方法を理解するのに苦労しました。また毎週の読み物の量が多く私の場合日本語でわからないところを調べたりしないといけなかったのとてつもなく時間がかかりました。しかしながら先生は非常に優しく常に私のことを気遣って適確なアドバイスを毎回くれました。文学作品の範囲は広くポエムから劇中のセリフまで多くの作品を取扱いました。難しかった分達成感は大きく自分の英米文学に対する興味をさらに上げてくれたと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
LING 120 - Exploring English	
科目設置学部・研究科	人文科学研究科
履修期間	1学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Sue Spinks
授業内容	この授業は言語学の導入的な内容で主に講義では基本的な概念の紹介と文法説明へのアプローチの仕方などを教えてもらえます。またテキストの文法とそれの文脈上の意味の関係を調査し解釈できるようになるよう目指します。用いられるテキストは話されているテキストと書かれているテキストの両方を用い文章を細かく分析していくことでそのテキスト特定の状況でどのようにして効果的に意味を伝えているかを考えていきます。
試験・課題など	課題は文法の練習問題とショートエッセイ、主要エッセイの 3 つがあります。どれも学んできた概念の反復的な内容に加え自らがどのようにしてその文章を解体し読解したかを問われます。そして試験は出題されるあらゆる文章を読み解き、比較し、どのような文章の構成が読者への印象を変えているかを問われる問題が出題されます。この試験に関してはあらかじめしっかりと授業の内容を理解していれば容易に解くことができると思います。
感想を自由記入	明治大学に在学中は統語論や音声学より文学系の授業に興味を持っていましたがこの授業を受けてから文の成り立ちや構成に関する言語学の方により興味を持ちました。またこの授業で学んだことはエッセイでも大いに役立ち効果的に読者に伝えたいことを伝えることを意識するようになりました。また言語学ということで英語が母語話者に対して引き目を感じていましたが以外にも英語を第二言語として学んでいる我々の方が高校などで学んでいる分より理解が早いということがありました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
ICOM 101 - Intercultural Relations	
科目設置学部・研究科	人文科学研究科
履修期間	2学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 2 回
担当教授	Sabine Krajewski
授業内容	この授業は ICOM 100 の補足的な内容です。そのためその授業で紹介された概念や内容が反復的に紹介されることもあります。内容としては異文化間のコミュニケーションの重要性について詳しく説明されていきます。講義とチュートリアルでは異文化間のコミュニケーションの文化的、経済的、政治的な側面に注目し大学、職場、メディアで行われているコミュニケーションのあり方について考えていきます。また国際的なメディアの流れについての知識を深めメディアが持つイメージ操作についても考えていきます。最終的には異文化間のコミュニケーションの社会的寛容性と理解を深めるアプローチの方法が対立的な状況の中でどう役立つかを導き出していきます。

試験・課題など	課題はチュートリアルでのプレゼンテーションのみですがその分そのプレゼンテーションの比重が大きいです。また試験はなくその代わりに 2000 字程度のエッセイがあります。内容は出題される 5 つのピックから一つ自由に選び今まで学んだことを絡めながらエッセイを書きます。
感想を自由記入	前期で同じような内容のものを学んでおり非常に興味を持った内容だったので非常にやりやすかったです。また異文化のコミュニケーションなので日本人である自分はよく議論の中心になることがありました。プレゼンテーションは大変苦労しました。一人で約 7~8 ページほどのパワーポイントで 10 分ほど与えられるので事前の準備はしっかりとしていきました。またあらゆる国々の人との意見交換は自分の固まった考え方や価値観に大きく影響しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
INST 205 - Screening Asia	
科目設置学部・研究科	人文科学研究科
履修期間	2 学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 4 回
担当教授	Sung Ae-Lee
授業内容	この授業は映画を通して現代のアジアについて学びます。それによりアジアの諸国間の文化の多様性、共通性、そして交換性についての知識を深めることができます。また様々なアジアの映画を通じて映画自体の社会的な内容の切り替えが私たちの日常生活にどのように直接的に影響を及ぼすかを知ることができます。映画には人種や国籍など人間のアイデンティティに関する部分について我々視聴者に対し疑問を呈し、影響を及ぼし、それにより社会にどのような影響を及ぼすかという力を内包しています。この授業を通じそのような見方ができるように学ぶことができます。
試験・課題など	課題は大きく分けて二つありエッセイとプレゼンテーションがあります。エッセイは授業中に鑑賞した映画の中から一つ選びそれについてのレビューをいくつか読みエッセイを書くクリティカルエッセイです。ただ単なる比較ではなくそのレビューが何に注目しどのオーディエンスに対しそのレビューを書いているかを考察するエッセイです。プレゼンテーションはチュートリアルのクラスメイトと二人一組になり指定された映画をあらゆる観点から分析し発表するものでグループでのプレゼンテーションですが実質採点は個人に振り分けられます。試験はなく長文エッセイになります。字数は 2500 字ほどで出題される質問の中から一つ選びエッセイを書きます。最低でも 10 個ほど参考文献を使用しなければならないので自分のエッセイと文献との関連性を探る作業にもなります。
感想を自由記入	この授業はアジアの映画についての授業なので日本についても取り扱うことがありチュートリアルでの議論参加が多かったです。またほかのアジア諸国と日本の間の事件、例えば北京大虐殺などをテーマにした映画などもあり個人的な歴史背景をしっかりと理解していることが重要だと感じました。先生は韓国の人で英語が第一言語ではなかったのですが他の授業に比べ講義の内容は理解しやすかったです。また他とは違い講義自体にも出席点がありチュートリアル前の上映会に出席しないとチュートリアルでは話についていけないのでしっかりとすべて参加する必要があります。一学期を通しおよそ 13 個ほどの映画を見ることになるので映画鑑賞が趣味の人にとっては興味深い内容だと感じました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
LING 290 - Language, Globalization and World Englishes	
科目設置学部・研究科	人文科学研究科
履修期間	2 学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が3回
担当教授	Peter Roger

授業内容	この授業はグローバル化している世界が現代の我々が使用している言語にどのような影響を及ぼしているかを見ていき、この数十年で起こりうる言語優位の変動と言語使用のパターンの変遷について考えていきます。特に世界的言語として認知されている英語に着目していき英語の世界的な拡散の歴史的背景、文化的と政治的な影響力、そして危機についてを調べていきます。私たちはこの授業を通じこの言語の変遷に対する社会適応力の必要性についての理解を深めます。また言語の統一化と偏見がもたらす世界的影響力に対しても学びなぜそれが危険なのかについても学びます。
試験・課題など	課題はエッセイが二つあり、一つ目はいくつかの新聞記事の中から一つ選びそれについて 500 字程度のコメントを書くものと二つ目は全く分野の違うクリティカルレビューを読みそれについての自分の意見を書くものがあります。これは一つのレビューにつき 800 字ほどのエッセイを書き参考文献の使用が許されます。このエッセイは批判的思考力をもってエッセイを書くのでただ単にこの意見と賛成であるといったように賛同するのではなくこういった考え方を欠いているといったように反対的な意見も要求されます。試験については試験期間中にあり、内容としては専門用語の確認とショートエッセイが 13 問ほど出題されます。どちらも授業でカバーしたところなのでしっかりと理解していればそれほど難しくありません。
感想を自由記入	一学期で言語学に興味も持ったのでこの授業を履修しましたが、さらに自分の興味を広げることができました。世界中で使われている英語の役割について学ぶ授業で日本の英語教育についても聞かれることがあり、客観的に日本について考えることができました。他の生徒の意見を聞いて感じたことはいまだに日本が英語の必要性についての危機感を欠いていること、日本の英語レベルが他の国より劣っていることでした。しかしながら同時に日本語が世界において学ぶべき言語として見られているということに気づき嬉しかったです。先生は非常に親切で協力的だったので不自由なく終わることができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
LING 291 - Writing in English	
科目設置学部・研究科	人文科学研究科
履修期間	2 学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Sue Spinks
授業内容	この授業は一般教育的内容で英語でのライティング、特に学問的や専門的に文章を書くのに不安を抱えている学生のための授業です。コミュニケーションシステムとして英語について着目し、書かれているテキストにおける言語使用のアプローチの仕方について紹介してくれます。講義、ワークショップ、チュートリアルにおいて正しく組織化されているテキストを紹介し言語選択の原則や構成の方法を分析していきます。そのように正しく書かれている文章を分析していくことで自分自身でもうまく書くことができるように教育してくれます。
試験・課題など	課題は全てで 4 つあります。要約、文章校正、テーマ、そして議題について議論するエッセイです。このエッセイは内容が重視されるよりも効果的に文章が構成され、組織化されているかを見られるエッセイです。これらの課題については特に厳しく文法やスペルミスがチェックされるので少し不利に感じるかもしれません。試験についてはあらかじめ配られる記事を自分なりに単語単位や文章単位、または段落単位で分析し試験中に自分なりに発見したことをまとめる長文エッセイです。授業中に紹介された専門用語を織り交ぜながら書くので事前の準備が必要になります。しかしながら問題はあらかじめ配られるので十分な準備ができるのでそれほど大変ではないと思います。
感想を自由記入	この授業は今まで留学中に履修した授業の中で一番難しく感じました。それはなじみのない文章をその場で分析しクラスの人たちと話し合うからです。しかしながら助かった点は一学期に履修した言語学の授業で紹介された概念が文章を分析するのに役立ったからです。なのでこの授業を履修したかったら LING 120 を先にやっておくと楽かもしれません。

### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験，期末試験，その他イベント等

2015年 1月～3月	語学試験、パスポート取得
4月～7月	出願
8月～9月	選考
10月～12月	寮の手配、ビザの取得
2016年 1月～3月	出発、履修登録
4月～7月	中休み、期末試験、冬休み
8月～9月	履修登録、中休み
10月～12月	期末テスト、帰国
2017年 1月～3月	単位認定
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	もともと小さい頃に海外に住んでいた経験があり、幼いころから英語を使って会話するのが好きでいつか海外で学ぶことに興味を持っていました。そのため大学に入る前から留学したいという気持ちは強かったです。自分は留学してこういうことを学びたい、またこういう人間になりたいといった具体的な目標はなく衝動的に行きたいといった気持ちの方が強かったです。その分留学を決めてからの行動は早かったと思います。またその他の理由としては留学を通し将来国際的に活躍したかったからです。特に海外などで働いたり外資系の企業に就職したりしようとなった場合留学というのは就活において大きなメリットになると思ったからです
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力はもともとあったため、自分が留学先で何を学びたいかについてよく考えるようにしました。留学中に感じたことなのですが、もう少し履修したい科目をよく考えていった方がよかったですと感じました。というのも中には履修したいと思った科目が必須科目をとっていないと履修できないことがよくあったからです。なので前学期にとる科目は後期の履修を考慮した上で履修するとよいと思います。
この留学先を選んだ理由	私がマッコーリー大学を選んだ理由は翻訳と通訳に力を入れていた大学だからです。元々私はその分野を専門的に学びたいという思いがあり協定先の大学の中に自分に合った大学があったのでここを選びました。実際は行ってみるとその年は中国語から英語への翻訳と通訳をメインに取り上げた授業のみで私が学びたかったことは大学院のみだったので残念でした。しかしながらその分野の基礎になる言語学を学ぶことで専門的な知識を増やしていきました。
大学・学生の雰囲気	オーストラリアは多国籍な国なので大学内はあらゆる国の学生と交流する機会がありました。また一年を通して様々なイベントを行っているので大変活発的で終始魅了されていました。
寮の雰囲気	寮では勉強できる最適な環境が整っているだけでなく、イベントも毎週開催されるため充実した大学生活が送れました。また友達を作るのにはぴったりの環境で交流する機会が多かったです。
交友関係	留学した当初は初めての環境に慣れずなかなか友達ができませんでした。寮内の先輩たちが私をいろいろな人たちとつなぐ機会を設けてくれて友達を作ることができました。最後にはかけがえのない友達を作ることができて満足しています。
困ったこと、大変だったこと	大変だったのは学業と日本の大学への資料提出、そして就職活動が重なったことです。時間の管理が難しく、寝られない日々が続きましたがその分達成感は大きかったです。
学習内容・勉強について	私は主に言語学を専攻していました。全く未知の分野で大変でしたがその分興味は大きかったです。専門用語やそれを文にしてまとめ、プレゼンテーションを行うといったように困難なことが多かったのですがやり切れてよかったです。
課題・試験について	課題の量は多く特にエッセイが中心の課題ばかりなので最初の方はかなり苦労しました。例えばある文献についてクリティカルエッセイを書く場合、まずその文献を完璧に理解するためそれを英語から日本語に要約し、書きたいことをまとめ一回日本語で大まかに書き、さらにそれを英語に書き換えるという他の学生の約二倍の時間がかかるため、なるべく早くに取り掛かるようにしました。さらに言語学を勉強していた自分にとって文法や単語の綴りというのはより細かくチェックしました。また時にはオーストラリアの友達にブルーフリーディングをしてもらうなど協力してもらい、課題をやり遂げることができました。試験については勉強すればするほど結果が出るというのが本音です。十二分に準備していき挑めば全く問題ないと思います。
大学外の活動について	大学外の活動で一番印象に残っていることといえば、やはりボランティア活動です。私は大学の冬休みを利用して熊本復興支援ボランティアと幼稚園ボランティアに参加しました。熊本復興支援ボランティアは熊本での震災を受けて私の留学先大学で行定勤監督映画の「うつくしいひと」のチャリティー上映会をしたものです。私自身熊本で震災が起きた時はオーストラリアにいたので、このような形で少しでも復興支援に協力できたことはありがたかったです。またシドニー在住の日本人の方たちにも会い、海外就職などの貴重な話をさせていただき、ためになったと思います。幼稚園のボランティアでは2週間という長い期間の間、現地の幼稚園で主に2歳から5歳までの間の子供のお世話をしました。特に幼稚園こだわっていたわけではないのですが、子供が好きという理由と海外で働くという経験してみたいという理由から、シドニーにあるスタンモア幼稚園でボランティアをさせてもらいました。先生たちも優しく、日本の文化にも興味を持ってもらい、折り紙や日本語を教える機会を設けていただきました。自分でも塗り絵を制作して持って行き、積極的に参加し子供たちと仲良くなれるよう努力しました。その中でも特に苦労した点は、子供たちと先生に合わせる英語力です。普段先生たちとコミュニケーションを図る際はいつも通り話せばいいのですが、特に2歳児の子達と話すときは

	どのように話せば一番伝わり理解してもらえるかなどを考え、接するのに大変でした。また、もちろんダメなことをしたときには注意しなければならないのですが、英語で叱るということをしたことがなかったので苦労しました。ほかにもオーストラリアの幼稚園では日本と比べて自由な分、ルールも厳しいので宗教的な理由も理解するように努力しました。その分子供たちからも気に入ってもらい、素晴らしい経験になったと思います。
留学を志す人へ	留学というのは誰も行きたいという気持ちだけで行けるものではありません。親からのサポートや自分自身の努力が実り初めて実現するものです。また自分の留学中の目標を定めず曖昧な気持ちで行ってしまうと、何もしないままあっという間に留学期間が終わってしまいます。そのくらい留学というのは時間が経つのが早いです。しかしながら留学で得られるものは大きく、絶対に後悔しないと思います。これだけは保証できます。ただ留学中は決して楽しいことばかりではありません。言語の壁にぶち当たったり、交友関係で悩んだり、海外生活は楽ではありません。しかしながらそれは逆に日本の素晴らしさを再確認できるチャンスでもあります。自らの国の良さを発信し、留学先の文化の違いも受け入れ、世界中にネットワークを広げられるよう交友関係を広めてください。あと最後に自分の語学力に不安を抱えているようであれば、そんな不安要素は忘れてください。気持ちでどうにでもなるものです。これも保証します。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	ジム		授業		授業	ジム	ジム
						交流会	ボランティア
午後	授業	授業	授業	授業		交流会	ボランティア
		ジム	ジム	ジム			
夕刻							
夜	自習	自習	自習	趣味	自習	趣味	自習